

線状降水帯の発生可能性に関する半日前からの呼びかけの開始

概要：線状降水帯の予測精度向上のため、観測・予測の強化を実施し、令和4年6月1日から、線状降水帯の発生可能性の半日程度前からの呼びかけを開始した。7月の大雨において、線状降水帯の発生可能性について呼びかけを行い、防災関係機関や地域住民へ警戒を促した。

対策名：113線状降水帯の予測精度向上等の防災気象情報の高度化対策
府省庁名：国土交通省

■ 実施主体：気象庁

■ 実施場所：全国

■ 事業概要：線状降水帯の予測精度向上のため、水蒸気観測機器の整備、関係機関と連携した集中観測、予測技術開発等を実施した。

■ 効果：

令和4年6月1日から、線状降水帯による大雨発生の可能性の半日程度前からの呼びかけを開始した。

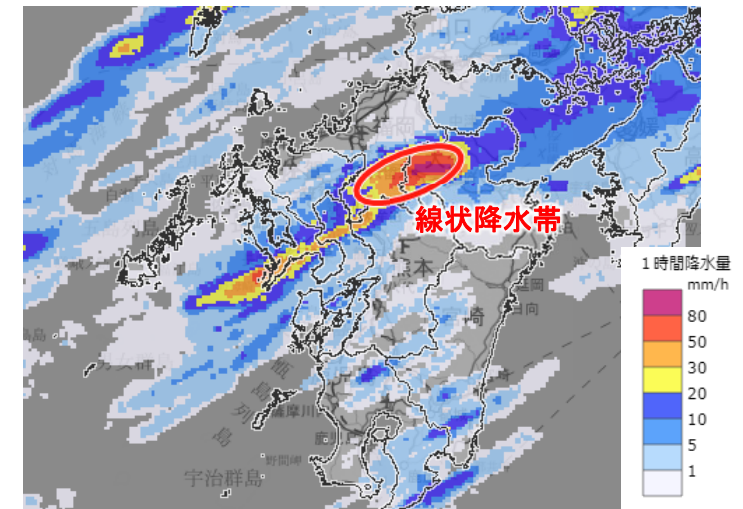
7月の大雨や台風第14号の接近時等において、実際に線状降水帯による大雨発生の可能性について呼びかけ、自治体等防災関係機関へ警戒を促した。また、報道機関を通じて地域住民にも効果的に周知された。

＜事前の呼びかけの内容＞

気象庁 Japan Meteorological Agency	気象情報	都道府県選択	市町村選択
一覧へ			
大雨と雷及び突風に関する全般気象情報 第3号			
2022年07月18日16時46分 気象庁発表			
九州北部地方と九州南部では、19日午前中にかけて、 <u>線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒してください。</u>			
【気圧配置など】 前線が華中から西日本へのびており、黄海には前線上の低気圧が東へ進んでいます。低気圧は18日は朝鮮半島付近へ進み、19日から20日にかけて日本海を東へ進む見込みです。前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込むため、前線の活動が活発となり、西日本では20日にかけて、東日本では19日から20日にかけて大気の状態が非常に不安定となるでしょう。			

7月18日16時46分発表 気象情報（気象庁ホームページ）

＜実際の降水の状況（線状降水帯が発生）＞



7月19日03時40分 1時間降水量